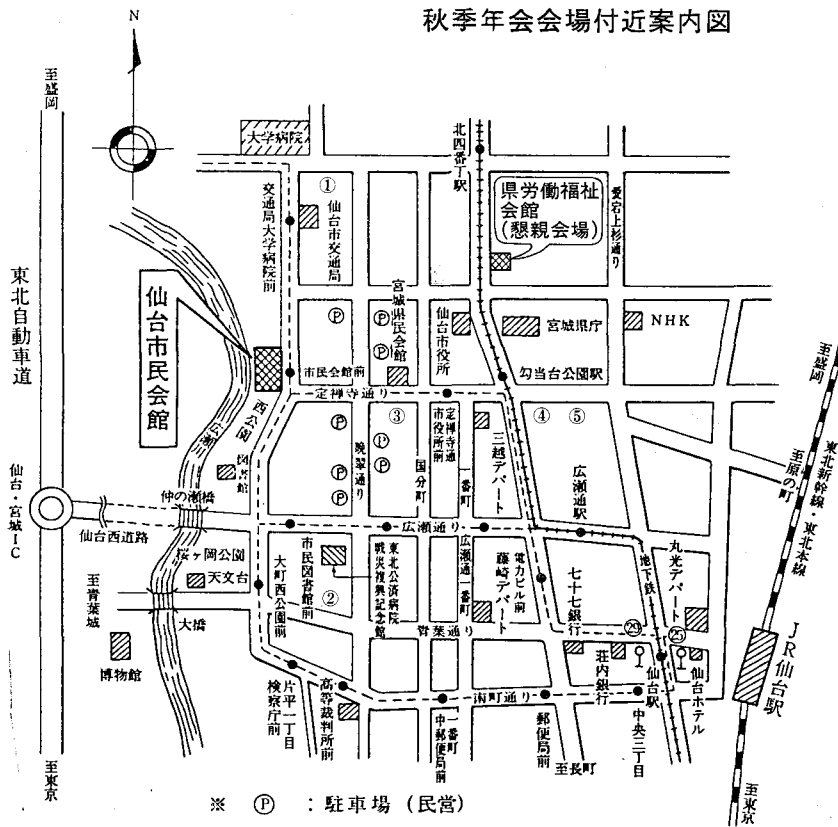


秋季年会会場付近案内図



<会館付近のホテル>

- ① ホテルニューモリスエ
- ② 仙台ワシントンホテル
- ③ ニューシティホテル
- ④ 三井アーバンホテル
- ⑤ 仙台プラザホテル

<交通案内>

- 仙台市地下鉄 勾当台公園駅下車 徒歩10分
- 仙台市営バス 仙台駅前 → 市民会館前 (所要15分)
- 交通局・大学病院前行 (広瀬通一番町又は定禅寺通経由) のりば 29番 (荘内銀行前) 約5分毎
- 中央循環線 (一番町経由) のりば 25番 (仙台ホテル前) 約15分毎
- タクシー JR 仙台駅 → 仙台市民会館 約2km 10分

.....
学会だより

日本天文学会の財政状況と会費改訂(案)について

本学会の財政状況につきましては春季年会での總會の
 おりに詳しく説明申し上げましたが、前回の会費値上げ
 (昭和62年度)の初年度以来、一貫して支出が収入を上
 回る事態が続いております。もちろん、理事会では経費
 の節減(例えば、パブリ編集の電算化、天文月報1989年
 12月号参照)、および事業収入の増大(例えば、特別企画
 としての絵葉書やスライド集の刊行など)をばかしてま
 いましたが、下記の表に示しますように、既に繰り越

し金も底を突きつつあり、学会事業の円滑な遂行が危ぶ
 まれる状態です。

年度	収支	繰り越し	注
S 62	-185万	680万	年度当初繰越 865万
S 63	-59	621	絵葉書収入あり
H 1	-67	554	スライド集収入あり
H 2	-145	409	" (予算)

申し上げるまでもなく、本学会の運営経費の基本は会
 員諸氏からの会費でまかなわれております。理事会とい
 たしましては、ひきつづき、経費の節減、事業収入の増
 大の道を探求いたします。しかし率直に申し上げて、印
 刷経費の支出増、事務量増加による人件費の増大、はた

また消費税に伴う支出の急騰などで経費の節減努力は帳消しになっており、他方、個々の事業が安定した収入源となるのはなかなか困難です。以上のように判断いたしましたので、次年度より会費を下記のように改訂することを提案するものです。

通常会員会費	年額 6,000円 (現行 5,000円)
特別会員会費	〃 16,000円 (現行12,000円)
〃 学生会費	〃 12,000円 (現行10,000円)
賛助会員	1口 30,000円/年 (据え置き)

この案につきましても、秋季年会時に臨時総会を開催して了解を求めた後、評議員会で最終決定することになっております。御意見をお寄せいただければ幸いです。

会計理事 小杉健郎, 野本憲一

「ISO 観測検討会」開催のお知らせ

「ISO 観測検討会」を年会第二日昼休みに開きます。関心のある方はふるって御参加下さい。

お 知 ら せ

バルジ大戦 総合研究(A)「SO 銀河の起源と銀河衝突との関連」研究会のお知らせ

SO 銀河の起源の解明は銀河の構造と進化の問題に非常に深く関わってきており、E・ハッブルが 1936 年に楕円銀河と円盤銀河の中間的な存在として SO 銀河というカテゴリーを提唱して以来数十年にわたって銀河進化説(内因説)と銀河及び銀河間物質との相互作用説(外因説)の論争が続いてきています。しかしながら、70年代から 80年代初頭にかけて精力的に行われた研究でも明快な結論は出ませんでした。この原因は SO 銀河に関するデータが質、量ともに不足していたことにあります。近年、各波長域のデータの質が向上し、それに伴い膨大なデータの取得が可能になってきました。そのおかげで、SO 銀河の観測もかなり進展し、巨大 HI ガスローブの発見、ボックスバルジの発見、またホットな銀河間ガスのデータの集積などの観測事実から、SO 銀河の起源として銀河衝突、合体及び銀河間ガスとの相互作用説が再びクローズアップされつつあります。したがって、今が世界に先駆けて SO 銀河の起源の問題を考え直す絶好のチャンスであると考えられます。そこで本研究会では現在まで得られている銀河の観測事実を体系的にまとめ、SO 銀河の起源と進化の問題を銀河の力学構造、化学進化、及び環境効果の側面から多角的に検討しようと考えています。

本研究会は 2 年計画で行われる予定になっており、今

年度は主として SO 銀河の観測事実を体系的にまとめることに重点を置き、研究計画の方法を検討することにしております。また、SO 銀河の性質を議論するときバルジの問題は避けて通れない問題なので、今年度の研究会のテーマの一つとする事にします。来年度は今年度の計画に沿った研究活動を行い、SO 銀河の起源に対する一つのビジョンを提供することを目的とします。科研費分担者のみならず、本研究テーマに関心をお持ちの方の参加を歓迎いたします。

記

日 時: 11月14日(水)午後2時~16日(金)午後3時

場 所: 長野県木曾郡日義村(木曾駒高原)

木曾文化公園 会議室

連絡先: 〒397-01 長野県木曾郡三岳村樽沢

東京大学木曾観測所 谷口義明

TEL: 0264-52-3360

FAX: 0264-52-3361 (FAX 連絡可)

国立天文台教官公募

1. 公募人事: 助教授 1 名
2. 所属部門: 理論天文学 (天文シミュレーション)
数値シミュレーション手法を用いて天体現象の理論的研究を行うと共に、国立天文台の計算機システムの共同利用・将来計画を積極的に推進する。
3. 着任時期: 決定後なるべく早い時期。
4. 応募資格: 大学院修士課程修了、又はそれ以上の方。
5. 提出書類: 略歴、研究歴、論文リスト及び主要論文別刷。
研究計画: 特に数値シミュレーション手法及び計算機システムの将来についての抱負。
自薦の場合は本人について意見を求めうる人 2 名の氏名と連絡先。
他薦の場合は推薦書。
6. 公募締切: 1990 年 11 月 30 日 (金) 必着
7. 提出先: 〒181 三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
Tel. 0422-41-3657
8. 問合せ先: 同上 理論天文学研究系主幹 池内 了
Tel. 0422-41-3740
9. その他: 封筒の表に「理論天文学人事応募書類在中」と朱書し、簡易書留でお送り下さい。選考は、国立天文台運営協議委員会において行ないます。